

山行報告書

作成:2007年7月16日 愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	樽前山、大雪連峰	目的[方法]	北海道の高山植物観賞/北海道の100名山
期間	2007年7月6日(金)~9(月)	形態	日帰り往復
参加人数	3人		

行動記録:

7/6(金) 羽田空港(06:30)==新千歳空港(08:15、09:00)=樽前山七合目登山口(10:00、10:15) - 東山(11:05、11:10) - 溶岩ドーム周回 - 西山との分岐(11:45) - 風不死岳分岐 - 樽前山七合目登山口(12:55、13:10)==トムラウシ温泉、国民宿舎東大雪荘(18:00、19:00)==トムラウシ自然休養林野営場(19:10)

7/7(土) トムラウシ自然休養林野営場(3:30) = 短縮登山口(4:00、4:15) - カムイ天上(5:20) - コマドリ沢分岐(06:25)

前トム平(07:20、07:25) - 縦走路との分岐(09:00、09:05) - トムラウシ山頂(9:30、09:45) - 前トム平(11:05、11:10) - コマドリ沢(12:00、12:05) - 短縮登山口(13:50) = 大雪荘(14:20、15:40) = 白金温泉国際野営場(19:00)

7/8(日) 白金温泉国際野営場(4:15) = 望岳台P(4:25、4:30)-雲の平分岐(05:25、05:30) - 昭和噴火口 - 十勝岳(7:40、8:00)-美瑛岳(10:25、11:00) - 美瑛岳分岐(11:45、11:50) - 雲の平分岐(13:00) - 望岳台 P (13:50)==白金温泉白樺荘(14:00、15:00)==国設旭岳青少年キャンプ場(17:00)

7/9(月) 国設旭岳青少年キャンプ場(05:55)==旭岳登山口(06:05、06:15) + + (ロープウェイ乗車) 姿見駅(06:25、06:30) - 八合目(07:30、07:40) - 旭岳(08:10、08:15) - 間宮岳(09:10) - 中岳分岐(09:30) - 裾合平(10:40) - 姿見駅(12:10、12:15) + + 旭岳登山口(12:25)==YH 白樺荘(12:40、13:30)==札幌大倉山ジャンプ台(16:00、17:00)==新千歳空港(18:30、20:35)==羽田空港(22:00)



日誌:北海道中央部、大雪連峰の 100 名山を中心に、北海道特有の高山植物、タルマイエソウなどの時期に合わせ企画した。当初、大雪～トムラウシ縦走の予定であったが、旭川発着の飛行機便の予約が取れず、新千歳空港発着となったためそれぞれの山を日帰り登山することとなった。ただ単純なピストンにならぬよう、時間の余裕さえあれば出来るだけ周回コースを取るよう考え行動する予定とした。一日目 7/6 は実質行動時間が短いため、歩行距離・時間の短い樽前山とし、最も歩行時間の長いトムラウシまでの移動に当てた。

7/6、新千歳空港に着陸するためのアプローチに入り窓から外を見ると緑の原生林が広がっていて、気持ちが高ぶってくる。梅雨のない北海道、天気予報も上々ということでこれから 4 日間の山行に大いに期待が高まる。到着後、野営に使うガスボンベを求めようと JAL 直営のキオスク BLUE SKY に行くが、予約をしていないと買えないと言われた。格安航空券の超割を使っていける最初の週末のせい、登山客も多いのだろう。店側も早速仕入れの注文をしたがこの日の午後でないかと入荷しないとのこと。仕方がないので、樽前山登山後にもう一度立ち寄ることにして(樽前山～トムラウシ登山口の移動の通り道)予約した。

新千歳空港から樽前山登山口までは車で約一時間、途中で国道・道道から離れてダケカンバ林の間のダート道に入って約 20 分、30 台くらいは入る駐車場に着く。トイレもある。支度を整え一番奥の登山口で入山名簿に記入して歩き始める。快晴ではないものの、高曇りで直射日光に照らされないのが理想的な天気とも言える。歩き始めると早くもウコンウツギやエゾイソツツジが咲いている。15 分ほど灌木の間を歩き、火山灰・礫地に出るとタルマイエソウが群生している。そのまま 20 分ほど歩き続け、斜面の向こうに苦小牧方面が見えて来ると東山はすぐ右手である。独特の溶岩ドームが目の前に見える。登山口から山頂まではわずか 50 分。ドームの右手のはるか奥には後方羊蹄山も見えてきた。そこから来た道を戻ってもいいのだが、溶岩ドームの周りを回り西山分岐まで行く。ドームの周りは荒涼として岩だらけなのだがイソツツジ、タルマイエソウ、ミネヤナギなどが群生している。帰りは風不死岳分岐から下山、北側斜面をトラバースするような形で歩くが途中モウセンゴケも見られた。わずか 3 時間にも満たない山行だがさすがに花の百名山。違う時期に来たらもっと多くの花に出会えるのだろうと思った。

下山後、トムラウシ登山口近くのキャンプ場に移動するが、結構遠い。新千歳空港で予約していたガスボンベを購入したり、休憩をかねて特産の夕張メロンをデザート用に買うなどの寄り道はしたが、日勝峠を越え、トムラウシ温泉まで約 5 時間。東大雪荘で入浴後、テント設営。東大雪荘の宿泊客はほとんどがトムラウシ登山者。中には「百名山紀行の会」などという 20 人以上の団体もいた。北海道の山でもトムラウシが一番人気というもうなづける。

7/7、今日は今山行での一番の長丁場、また前日の団体登山客が「行動時間 13 時間以上」と言っていたので、気合を入れて午前 4 時ころから歩こうと、みなで話をしていた。短縮登山口へ移動。早くもバスを含む 20 台程度がすでに駐車していた。

カムイ天上までは目立った花もない退屈な笹原と林間を歩くコース。旧道への分岐(沢へ直接降りる旧道は立ち入り禁止)あたりから右手に前トムラウシが見えてきて、心が弾んでくる。尾根を巻いて歩く道を 40 分ほど行くと、ありました、エゾコザクラ。小さな沢が流れる草地の急斜面の上にも下にも群生していた。さらに 20 分ほど行き沢への下り坂を降り、ぬかるんだ道を歩くと左側の草のかげにサンカヨウ、この花が実に大きい。その先のコマドリ沢は残雪の上を歩く。そこを抜けると岩だらけの道になる。そこからはまさに百花繚乱。前トム平までにエゾツガザクラ、エゾイソツツジ、更にはコマクサまで見られた。赤、白、黄色に紫、一つの種類の花が咲いているのではなく一箇所ぞろぞろ競演している。頂上直下のトムラウシ分岐までいたるところにお花畑、ベニバナミネズオウ、チングルマ、イワウメ、メアカンキンバイ、キンロバイ、エゾハクサンイチゲ、名前が判別できない花や、一度聞いたが思いだせない名前の花など何十種類もの花で埋め尽くされていた。頂上への急坂の途中にはキタキツネを見ることも出来ました。

この日は朝から快晴で、途中展望の開けるところから周囲の山も一望に出来、東には二ペソツ、石狩岳。南西には十勝連峰の主峰十勝岳はもちろん、オプタテシケ、富良野岳。そして山頂からは大雪の旭岳などの山々と抜群の展望も満喫した。頂上は風が強くなってきたので長居はせずに下山開始。5 時間 15 分かけて登った道のりを忠実にたどり下りは 4 時間 5 分、行動時間 9 時間 30 分以上でやはりきつい山でしたが、その見返りも大きい山行になりました。下山後前日同様東大雪荘の温泉に入浴した後、十勝岳登山口近くのキャンプ場へ移動。

7/8、この日も十勝岳のピストンだけでなく、美瑛岳に回れるよう早起きをしてテント撤収後、午前 4 時半に望岳台に移動して歩き始める。途中で昭和噴火口というポイントがあるように比較的最近に噴火があり、3 時間 10 分ほどで着いた十勝岳頂上までは目立った花もなく実に単調な火山灰大地をひたすら歩く。ただこの日も快晴で展望は良く、登ってきた道を時折振り返ると美瑛から富良野の広い台地が一望でき気持ちは良い。昭和噴火口から緩やかな登りを行い、頂上への急登にかかるあたりは粘土質になっていて滑りやすく、実に歩きにくい。実際雨の日に使ったと思われるアイゼンの爪跡とが残っていた。

花好きの我々のこの日のハイライトはやはり登頂の後、美瑛に向かうところであった。鋸岳を越えるあたりからようやく花に出会えた。砂礫地にはタルマイソウ、メアカンキンバイ、キンロバイ、キバナシャクナゲ、エゾツガザクラ、イワウメ、イワヒゲ、エゾコザクラ、ベニバナミネズオウ、ジムカデ等々前日に続く花の競演。美瑛岳の頂上近くの東側斜面に来るとチングルマ、エゾツガザクラその他の大群落。十勝岳から美瑛岳までの約 2 時間半いたるところ息を呑むすばらしさに疲れを感じることはなかった。帰り道も登りほどではないにせよいろいろな花が見られ、楽しめた。こちらはエゾイソツツジ、タルマイソウ、エゾコザクラが多かった。

下山後の温泉は、町営の白樺荘に入ったがここは石鹸・シャンプーがなく少々不便だった。下山が午後 2 時前だったので、この日の移動は余裕があり、旭岳キャンプ場にはまだ日の明るいうちに到着した。

7/9 快晴とはいかないまでも、この日も好天で最終日も大いに楽しむことが期待できた。姿見まではロープウェイで行く予定で、午前 6:00 から 15 分毎に発車するがあえて 6:15 発に乗り、姿見駅に着く。案の定、始発に乗った人に聞くとロープウェイは大混雑だったようだ。一方我々はわずか 10 数人、わずか 10 分の空中散歩を余裕で楽しめた。まずは旭岳直登コースを取る。姿見の池周辺はお花畑、この日までになじみとなったエゾコザクラ、コエゾノツガザクラ、エゾノツガザクラなどの北海道固有の高山植物に迎えられる。20~30 分を過ぎると十勝岳同様荒涼な火山灰大地になる。岩もごろごろしている。歩き続けると、右手に前日までに登った十勝岳・トムラウシが見えてくる。但しこの日は十勝の上に雲がかかって頂上は確認できない。風も強く冷たい。休憩を取った八合目では岩陰に隠れないと半袖では寒くなるほどだった。

6:30 に歩き始めて 8:10 には山頂、快調なペースだった。時間に余裕があるのでこの日も周回コースを取ることにする。頂上でこれから歩くコースを確認して、間宮岳に向かう。下りの東側斜面は一面の残雪、滑るように降りる。裏旭のキャンプ指定地あたりからお花畑が始まる。キバナシャクナゲは見事だった。おなじみのチングルマ、エゾコザクラ、イワウメも群落がすばらしい。エゾイタカネスミレやくモマユキノシタも見ることができた。間宮岳はどこが山頂が分からないピークのない山、平原という感じだった。旭岳からは一時間弱、ここも一面花が咲き乱れる。中岳分岐へ下る道では、黒岳方面からの縦走登山者とすれ違う。中岳温泉(沢に岩風呂が作られている感じで面白い、適温)に下る途中はチングルマやエゾツガザクラが群生している。比布岳(多分)をバックに思わず写真を撮る。中岳温泉を抜けると大湿原が広がるが、その手前に異様に大きいエゾノリュウキンカがまだ咲き残っていた。湿原に入ると旭岳の姿が雄大。花も豊富でエゾノハクサンイチゲも見られた。裾合平までは割りあい平坦だが、ここからトラバース道を緩やかな登りが約 30 分ほど続く。姿見の池が見えるあたりになるとまたまたお花畑、たくさんの方が旭岳とお花畑を入れた写真を撮っている。裾合平からは一時間半ほどで姿見駅に着く。

ロープウェイで旭岳登山口に戻る。YH 白樺荘で入浴。時間があつたので途中札幌に寄り、参加メンバーの希望で大倉山シャツツェを見学後、レンタカーを戻し新千歳空港に着いたのが午後 6 時半頃。たっぷりの満足感を持って今回の山行を締めくくった。

【温泉】トムラウシ温泉、東大雪荘 @500、白金温泉、白樺荘 @400、旭岳温泉、白樺荘 @500

感想: 10 数年前、本格的に山歩きを趣味としていなかった頃に北海道を訪れ樽前山に登ったことがあるのだが、タルマイソウなどの花にはまったく興味なし。山歩きを始めて 5~6 年たった今頃になってもったいないことをしたと思うようになっていた。そんな思い出を持ちながらの今回の山行、本州の山でいろいろな高山植物の名前を覚え期待いっぱい北海道に来たが裏切られることはなかった。どこへ行っても花、花、花、まさに百花繚乱、また似たような花もあり、結局覚えきれない名前前の花もあったが、確実に私の辞書のページは増えていった。

北海道の山は実におおらかで雄大、何度でも来たいという思いを抱き山行を終え、帰京した。